

# 童

2020年5月29日

ようやく子ども達の声に戻ってきた大地。オタマジャクシもかえるも、かねぢよろも 鯉のぼりも、樹木達も大喜びの毎日です。春の雪解けから芽吹き開花の時期を飛び越えて、いきなり新緑の季節にやってきた子ども達。桜が咲く＝新学期・新入学 という日本の図式が今年をあてはまらなかったようで、不思議な気分でした。

逆に、自主登園期間中は、環境整備 畑整備 文庫の本リスト整理などのリズムある仕事を通じて、大地の周囲の自然の移ろい 芽吹き 開花 樹木の変化 畑や水田の耕作状況 花壇の芽吹き そして、定期的な野鳥の鳴き声 気温の変化 などなど、大地の自然の変化を、ゆっくりと確実に味わうことができ、何て幸せな場所なんだろうと、喜びに包まれました。

しかしながら、やはり、この自然環境も、長年にわたり、子ども達の足音や足跡や声に育てられてきただけに、子ども達がやってきた途端に、輝きが増し、全てのもの達が、勢いのある活力をもたらしてくれているようです。本当に、自然は生きていますね。

この一ヶ月半の間に、子ども達は確実に成長しているようで、出会いの会以後の新入生を始め、進級児達も、穏やかなスタートをきりました。大地創業以来、新学期の慣らし保育は室内には入らず、朝から帰りまで、ずっと魅力的な野外で何の束縛も教えられる決まりや約束事もなく、ゆったりと散歩するだけの毎日。子ども達にしてみれば、幼稚園に来ているというよりも、毎日魅力的な自然の中を気ままに散歩しているだけという実感でしょう。

**幼稚園は楽しいところだという触れ込み** である子ども達にとって、窮屈な室内であれこれの約束事や決まりを教えられ、皆同じ行動や遊びを強いられば、どんな気分でしょう。

大地は、この触れ込みの期待通りのデビューを、子ども達に約束しなければなりません。それが、狙いなのです。そして、これからは、徐々にそれとなく 決まりや約束事を、提示していくという作戦です。

コロナ第2波の状況を見ながら、次の段階に進みたいと思います。ぐずぐずしていたら、もう夏がそこまで来てしまいます！！



## 【祈りの首飾り】

連日、どの新聞やニュースやマスコミ広報にも、コロナの文字が見当たらない日がありません。そして、コロナにより、日本ならず世界の暮らしの変化、社会のあり方が、構造的に変化していくという議論も活発です。

大地は、子どもや人間あつての場所なので、流行のオンラインとは無縁です。世の中、テレワークやオンライン会議 オンライン授業など オンライン・・・うんざりするほど、これらの便利さ 魅力が、あちこちであがっています。電車の中やレストラン 野外などで、スマホを見る光景に加えて、家でも終日 パソコンを前にしている、大人のみならず子ども達もいる光景を想像するだけでも、ぞっとします。パソコンやスマホがなければ生きていけない世の中。石油やガソリンなど化石燃料に依存すると同様に、電気や通信設備に依存しなければ暮らしていけない社会基盤が更に強化されていっているようです。

大震災や原発問題での教訓の中で、私たちが学んだ気づきや暮らし方 大量消費やモノを多く持つ空虚感 省エネやつつましい暮らしなどから離れて、違った意味で、更に便利で効率的 合理的 経済的 な暮らしを求めているように感じます。幼児から大人まで、一人に一台 スマホやパソコンがなければならぬ時代が、そこまで来ているように感じます。

誤解を恐れずに言えば、スマホやパソコンに教育されてしまい、親は それらを買って与えるだけ、そして アプリを選んであげる（子どもの方が良く知っている！！）のが、親としての教育になるかもしれません。親も、もちろんパソコン主導で仕事をしているだけに。親力というものは、どうなっていくのでしょうか。

コロナ問題で、学校が休校になり、学力が低下する、家に子ども達がいるので親が大変などと騒がれています。以前までは夏休みが一ヶ月半あったり、春休みや冬休みも普通にありました。その休みのせいで学力が低下するという話はありませんでした。人生 100 年時代に、1, 2 ヶ月学校に行かなくても、学力が低下するほど、学力とはその程度のものなのでしょうか。これらも、受験受験学歴に備えた学力を前提にしているだけとしか思えません。学校に学力を依存している、すべてを学校に任せているから、低下すると心配になるだけです。親が、自らの責任で、一緒に新聞を読んだり、学んだり 討議したり 自然体験をしたりして、親力を発揮すればよいと思います。受験に備えた学力 学歴を築く学力にこだわる道もありますが、長い人生を見て 我が子には どんな学力（記憶力ではなく）が必要なかを親が選んで、他力本願にはならず親が努力していく必要があると思います。

どなたかがおっしゃっていました。日本人は「自分ではない誰かがしてくれる」気持ち強い。サービスが整いすぎていのが日本の弱さで、知恵や能力を使う機会がなく、自ら考えて動くのが苦手な他責傾向がある。ただ、わかっているのは、この問題は誰かが解決してくれるものではない。他人がやってくれないのを前提に個人の能力を上げ、自分自身や地域でやる覚悟を決めて、人と連帯感を持つしかない という道を選んでいけば変わっていくでしょう と。

家族も夫婦も親子も家庭も、社会も、他人やモノに、依存していく割合が、時代と共に高まっているように思えます。自分の身近な不注意による事故やけがなども、社会の管理責任や他者のせいにしたりするニュースも以前よりも多く聞くようになりました。

子育ての現場においてもどうでしょうか。子どもの事故やけがからはじまり、子どもの落ち着きのなさやしつけ、約束事などにおいても、他者依存や他責 誰かが見てくれている、子どもが自分で言ったので、その通りにしました（子どもに結果責任を押しつけてる）などの傾向は高まっているように感じます。

この一ヶ月、送迎がないので、親子で登園降園、親子で過ごす場面をたくさん見させて頂きました。子どもが、安心して穏やかに過ごせるポイントは、**祈り** です。祈りとは、子どもを見守る意識です。具体的には、今、自分の子どもがどうしているか 親が自ら責任を持って意識を向けて一緒に、心身ともに行動しているかどうかです。自らの行動責任ですね。

降園後のスロープの状況を一例にあげると。子どもは、常に動き回る存在です。木登り 滑り台 昆虫探しや花集め、好奇心の塊です。これを共有するのが祈り 親力の一步です。皆さんが、芝生に座り 肩を並べてお話する姿がたくさん見受けられます。子ども達は、誰から守られ 祈りを捧げてもらっているのか不安になります。そんな中、子どもと共に大人がじっと座っている後ろ姿を見かけました。私には祈りが見えました。自責が見えました。帰りにその子の首には、見事なシロツメクサの首飾りがさがっていました。まさに 祈りの首飾り でした。